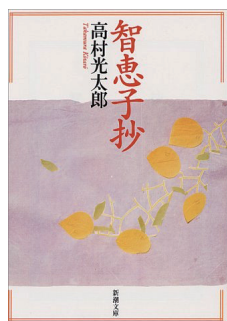


心が震えた10冊

八戸工業大学 基礎教育研究センター 講師（文学博士）岩崎 真梨子

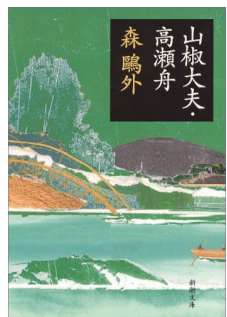
過去に読んだ本のなかで、心が震えた10冊を選びました。心の震え方はいろいろです。物語の一節や登場人物のセリフ、ミステリーなどで伏線が回収されて「そうだったのか!」と気づけたとき。そうした心が震える本は、私にとって特別な存在になります。今回選んだ10冊は、そういう特別な本たちです。



智恵子抄

高村光太郎

文学の講義で使用しています。詩人であり彫刻家でもある高村光太郎が、妻の智恵子について詠んだ詩集です。深い愛情と、幸せや悲しみ、ときには怒りを感じ、読んでいると落ち着くので、移動中などにも持ち歩き、読み返しています。お気に入りの詩をノートに書き写したり、音読したりすることもあります。



「最後の一句」(『山椒大夫・高瀬舟』所収)

森 鷗外

文学の課題本として使用しています。物語の最高潮で、父の身代わりになって殺されても良いかと尋ねられた娘「いち」の冷やかな返答、そして最後に言い足した「お上の事には間違はございますまいから」という言葉が心に残ります。自分の命を擲ってでも大切なものを守ろうとする「いち」にも共感します。この作品を読んで、「お上」の方々は何を思うのでしょうか。



ビブリア古書堂の事件手帖シリーズ

(全7巻)

三上 延

シリーズ物です。2017年2月に最新刊の7巻が発売され、完結しました。人の手を渡り歩いてきた古書にまつわる秘密と謎を解き明かす物語という紹介文だけで、本好きの私は心が躍ります。ビブリア古書堂の美しい女店主の葉子さんと、葉子さんにベタ惚れしている硬派な大輔君が、お互いを助け合いながら謎を解いていくところにも魅力を感じます。



図書館戦争シリーズ (全4巻+別冊2巻)

有川 浩

こちらもシリーズ物です。主人公の笠原郁は、明るくて前向きですが無鉄砲なところもあり、最初の頃はやきもきする場面もありますが、徐々に成長していきます。主人公以外にも、上司の堂上篤をはじめ、ルームメイトの柴崎麻子、同期の手塚光といった登場人物が魅力的で、物語と同時にそれぞれの人間関係の続きも気になり、引き込まれます。



アヒルと鴨のコインロッカー

伊坂 幸太郎

数年前ですが、講義で使ったこともあります。推理小説のなかで、最も泣いた作品です。この作品は、最初は不思議で、面白おかしい内容に思えるのですが、終わりに近づくにつれ悲しい事実が明らかになっていきます。パズルのピースがはまるように物語が完成に近づき、ほんの少し救いがあるかな、と思える終わりを迎えます。



リング

鈴木 光司

これまで読んだ本のなかで、最も続きが気になった作品です。見ると1週間後に死んでしまう呪いのビデオ、それに興味を示したばかりに巻き込まれていく雑誌記者の浅川。死なないためにどうすればいいか、その方法を探し、浅川と友人の高山竜司が奔走します。最後の最後に出てくる「今、この瞬間の自分の気持ちに忠実になれ!」という台詞が好きで、何度もノートに書きました。



恋愛中毒

山本 文緒

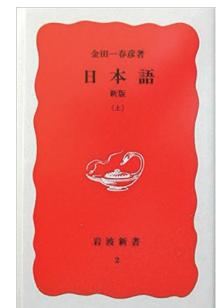
最も読み返した回数が多い長編恋愛小説です。最後で明らかになる主人公・水無月の真実に鳥肌が立ちます。恋をしている女性は誰しも、心の中に少なからず水無月に似た本性を抱えているのではないかと思います。それだけに、共感しながら読み進めた先の結末が一層恐ろしい。恐ろしいけれど、読み返さずにはいられない。その無視できない感覚こそが「恋愛中毒」なのかもしれません。



超訳百人一首 うた恋い。(第3巻)

杉田 圭

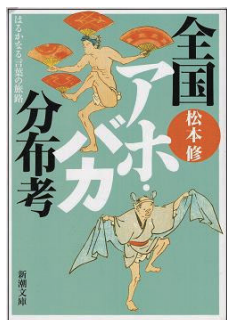
文学の講義で使用しています。2017年度は、清少納言と藤原行成の人間関係を軸とした3巻を扱う予定です。百人一首にまつわる物語を、漫画で表現したものです。和歌や故事成語、四字熟語といった教養は、その背景にある物語と一緒に覚えていくと頭に入りやすいと思うので、興味を持つきっかけになればと考えて紹介しています。



日本語 (上巻 / 下巻)

金田一 春彦

タイトル通り、日本語の専門書ですが、日本語に興味のある方なら、十分に読むことができます。日本語が他の言語とどう違うのかといったことが、分かりやすく解説されています。若い人たちの疑問にも答えられる内容となっているので、講義内で部分的に用いることもあります。



全国アホ・バカ分布考

松本 修

1学年向けのゼミナールで使用しています。まるでバラエティ番組の取材を見ているかのように軽快で楽しい作品ですが、専門書に劣らぬ濃い内容です。愚かな人に対し、東京ではバカといい、大阪ではアホという。その境界線は一体どこにあるのか? 有名なテレビ番組に寄せられた疑問が、やがて全国の方言調査へと発展し、大きな成果をもたらします。知的好奇心とは何かを教えてくれる作品です。

八戸工業大学
基礎教育研究センター 講師 (文学博士)
岩崎 真梨子

2012年、27歳で岡山から八戸に来て、勤務6年目になります。はじめの頃は、八戸の気候や生活環境に慣れるのに精一杯でしたが、徐々に仕事や地域に慣れてきました。2014年から「ビブリオバトル in ハチノヘ」に学生と一緒に参加したり、2016年から八戸ブックセンターの懇談会メンバーとしてブックセンターの開設に関わったりするなど、「本」に関わる仕事が増えていきました。



八戸ブックセンター
HACHINOHE BOOK CENTER

〒031-0033 青森県八戸市六日町 16-2 Garden Terrace 1F
TEL 0178-20-8368 FAX 0178-20-8218 web <https://8book.jp/>